

## 肥料高騰に対する施肥の御相談について

ロシアのウクライナ侵攻、急速に進む円安の影響で、化学肥料の価格が急騰し、農業経営に大きな影響を及ぼしています。

これに対し、国が肥料価格高騰対策事業を立ち上げ、化学肥料低減の取組を行った上での肥料費の上昇分に対し支援が受けられるようになっていきます。

農家の皆様は幾分安堵の気持ちでしょうが、支援を受けるためには、国が示した**15のメニューのうち2つ以上に取り組み必要**があります。

このうち、取り組みやすいと思われる以下の2つのメニューについて、具体例を交えながら説明します。



### 1 土壌診断による施肥設計 土壌診断を行い、土に含まれる肥料成分の量を知りましょう！

農作物を栽培する際、品目毎に施肥基準が示されています。施肥基準は、土壌に含まれる肥料成分ごとの含有量が適正值（表1の目標値）であることを前提に定められています。

つまり、栽培するほ場の**肥料成分含有量が適正值以上あれば、その成分は減らしても問題ないこと**になります。

表1 土壌診断結果の例

項目	測定値	適正範囲		判定	目標値
		下限	上限		
酸度	pH(H <sub>2</sub> O)	6.1	6 ~ 6.5	適正	6.3
窒素	EC	0.13	0.3以下	-	0.3以下
多量必須要素	石灰(Ca)	330	252 ~ 378	適正	315
	苦土(Mg)	40	28 ~ 54	適正	41
	リン酸(P)	44	10 ~ 50	適正	30
	カリ(K)	61	19 ~ 47	高	33

(具体例)

例えば、表1の土壌診断結果(一部抜粋)が返ってきた場合、このほ場は、リン酸は適正範囲にありますが上限に近い含有量です。また、カリは適正範囲の上限をオーバーしています。

県土壌管理指針(七訂版)では、表2のように、牛ふん完熟堆肥を2t/10a施用することで、リン酸とカリが減肥できる目安を示しています。

これによれば、リン酸は44mgで30~50mg/100gの範囲にあるので基準量の半量、カリは61mgで47mg/100g以上あるので無施用にすることができます。

表2 県土壌管理指針によるリン酸・カリの減肥の目安(牛ふん完熟堆肥2t/10a施肥が前提)

施肥量	基準量施用	基準量の半量施用	施用なし
リン酸	30mg/100g以下	30~50mg/100g	50mg/100g以上
カリ	23mg/100g以下	23~47mg/100g	47mg/100g以上

なお、化学肥料は配合肥料が一般的ですので、上記のように一部の成分を減らす場合、単肥での施用を組み合わせることになります。

### 2 緑肥作物の利用 減肥の他、地力の把握のためにも、緑肥の作付けをしましょう！

春作終了後、夏場に緑肥作物を作付けし、すき込むことで、有機物とともに肥料成分の供給ができます。

また、緑肥の生育度合いにより、おおまかな地力及びpHを推定できるとともに、ほ場内の地力ムラを知り、それを参考に施肥量を加減することで化学肥料削減につながります。



なお、農業普及課は、これら肥料設計や施肥に関する技術について、各部門別に担当がおりますので遠慮なく御相談ください！(表3)



表3 農業普及課 部門別相談窓口

部門	担当職員
野菜	原田, 大森, 田中
花き	渡辺, 本山
果樹	原口
さとうきび	西
飼料作物	大久保